

慶応三年五月十二日より慶応三年五月十四日まで

P8310683right

李(プロイセン\*)公使対話配さし越、且此度去就辞職の決意徒々申来る、富沢叔母小品持来  
大助転進

の謝申述歟旨、礫姑前同断の旨、旧侍栄蔵花々許多(あまた)持来相当の謝品遣し旨

前書意太利(イタリア)書翰訳す為め明日出勤□三郎達す、塚原(但)明日四時御用召し報あり、明日  
五半時

御用召御達書河内守殿より御達有し、才輔を請に出す、明日亜公使面晤の義、宿寺詰より申来る  
十三日寅 雨

御用 召吹聴状(\*3)礫川番町坂町浅艸へ藤山より出す、長蔵へも及す、塚原へも昨の返書を兼  
申遣す、川勝へは坂地サトウ設費の謝として鯉券を遣し合て右吹聴申遣す、亜公使面晤

の義、本日、御用召に付登城の上申合、出張可致間、□齊可相成段宿寺詰より為申入、朝比奈  
(甲)へ

昨の返書遣す、五半時御用召は(盤) 城西丸芙蓉間扣為可。大坂町奉行被仰付候旨

P8310683left 兼帯被仰付

稲葉民部少輔殿被仰付、元新番所前□おいて外国奉行兼帯被仰付候旨、被仰渡御用部

屋にて、兵庫並大坂表外国人居留地御用取扱様、被仰渡候、丸之内廻勤は自から許す、山本長  
番町隠居(鯉ぶし一折)坂町叔母(鶏卵一折須崎(常)鯉ぶし一箱一正□より、鶏卵一箱)藤山、

西堀辰弥(鶏卵一箱)等来る、番町隠居

坂町叔母泊宿、西堀辰弥並才輔、久右衛門初婢とも一同へ賀銀遣す、水野(\*2)痴雲菊池辻番組合  
並

同役、旧新とも吹聴状遣す

十四日卯 晴雲

金港水野若より李書翰一書英人ケムブトネルより□□□へも一書届け越す、野宮(市)より  
転役賀として鯉ぶし

一連贈り来る、才輔より同断、鮮魚数尾を持来、内山へ右魚を遣す、番町へ幸便鶏卵折を  
遣す、次一同より鶏卵一折、屋代(善)へ吹聴状出す、笠原伊藤(幸)同断、細谷(秀)来る、賀銀  
並坂地

\*1: 李漏生、ドイツ北部からポーランド西部地域を領有

\*2: 水野痴雲(忠徳)、幕末三俊の一人、甲子二郎、外国奉行等

\*3: 吹聴状は挨拶状のハナ

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。